

情勢報告

アスパラガス研究会を開催



現地検討会の後は座学で情報交換

7月25日東部地区で第8回アスパラガス研究会を開催した。内容は現地研修と座学であるが、現地圃場では「どれくらい摘葉したらいいか?」、「灌水は何日間隔か?」など熱心な質問がかわされた。座学においてはアザミウマ類など重要害虫の防除対策や立茎後の草勢管理(灌水、施肥)について事例の紹介や取り組み試験の中間報告があった。当振興センターでは平成21年度からのコナジラミ類対策の取り組みについて報告した。

アスパラガス半促成栽培は導入したばかりなので課題は多いが、研究会等を通じて解決に向け取り組んでいく。

開催！ ユズ料理教室 in 北川村



熱心に説明を受けている

7月29日に北川村総合保健福祉センターでJA土佐あき柚子部北川支部と女性部北川支部が主催となり青玉ユズやユズ酢を使った料理講習会を開催した。

料理研究家大庭英子氏とものづくりプロデューサー中村裕子氏を講師に、女性部21名の参加があり、「青玉ゆずの輪切りをそのまま揚げるなんて思い浮かばない」など驚きや「早速家で作りたい」という声があがった。

振興センターとしては、首都圏のユズ利用は皮が主体なので、このような講習会を持つことで生産者に「まるごとユズ」の活用法を知ってもらい、消費者にアピールしやすくすることがねらい。今後とも柚子部、女性部とともに消費拡大への連携をとる。

自分たちの取り組みを見直し産地を元気にするきっかけづくりへ(深層水なす部会)



産地のこれからを真剣に話し合う

7月30日、JA土佐あき羽根集出荷場で深層水なす部会の役員会が行われた。部会では高齢化により生産者数が減少しているため、出荷量の維持確保が重要課題となっている。

そこで振興センターから「こうち農業環境・安全・安心ウォッチャー」について説明し、ISOやIPM等これまで部会で取り組んできたことを外部の視点から見直し、いわゆるウォッチャーさんを招いて産地の活性化を図ってはどうか、と提案したところ、次につながるきっかけにと実施することになった。「味には自信があるからぜひ食べてもらいたい」、「生産者と消費者の交流はいい刺激になるかも」との前向きな意見が出た。

営農指導員と普及指導員で活動目標や計画について協議(8/18)



真剣に計画を検討する

管内4ブロック（芸西、安芸、中芸、芸東）の野菜、果樹、花き園芸振興および経営担い手部門について、30名の営農指導員と普及指導員が集い、前年度の活動実績を元に24園芸年度の活動目標や活動計画を発表し合い協議した。

この活動は関係者で共通認識を持ち、産地振興を効率的に進めるためのもの今年で4年目となった。導入当初は違和感を訴える者もいたが、現在では共通認識の元、統一的な活動ができる事もあり定着している。

今後は、各ブロックで実効性のある活動が展開できるよう進捗管理を共に行いながら産地振興に取り組んでいく。